



ハワイ大学語学研修の記録

2016/04/01

ハワイ大学語学研修を実施する意義

学生たちは、このハワイ大学語学研修から沢山の学びを得た。プログラムの事前学習で一島正真名誉教授よりハワイ日系移民の歴史を知り、その当時の人々の暮らしとその宗教観を学んだ。観光地として知られているオアフ島には、多くの日本人が日本より移民をし現在の日系社会を作った背景がある。昨年に引き続き研修では、ハワイ浄土宗別院、そして天台宗ハワイ別院を訪問した。ハワイ浄土宗別院では日曜礼拝に参加し淑徳大学や城西国際大学の学生とも交流を計った。更にはハワイ日本文化センターにも訪問した。ハワイ大学では、宗教学部学部長モール先生による、日系移民の歴史と取り巻く仏教を学んだ。この、研修の背骨は、外から見る日系移民の歴史を知りながら現代のハワイを学ぶことであった。それ以外にも、勿論、英語力を身に付けることに重点が置かれた。コミュニケーション能力を身に付けるために、ハワイ大学の学生と沢山、話げできた。相手に伝える力をつけること、それが今、求められている。

もう一つ学生たちは大事なことを学んできた。社会適応力 — 同じ目的を持った学生が集まり行動をすることの難しさ。自分の思いだけを通しては、何もうまくいかないことを学び、集団の中での自分を見出すこと。社会適応能力を高めることで自分を成長させることが出来ること。時間を守り、約束事を守り、自主的に行動し、正しい判断をすること、今の若い人々が最も苦手とすることを、語学研修の集団生活の中で学ぶ。

ハワイ大学語学研修を通して学ぶことはたくさんあり、成長した研修であった。

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているように思われる。今回のハワイ大学の研修を通して参加者の全体数で女子学生13に対して男子学生3の割合になっている。男子学生は更に、内向化が進んでいる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているように推察される。このプログラムには、ハワイへのステレオタイプ観が見え隠れしていた。

本校が実施している「ハワイ大学語学研修」も上記のような影響を受け、参加者の数が少なかったが実施を継続する事で一人でも学生を海外に送り出す機会を与えることに重きを置きプログラムを実施している。

この号の内容

語学研修を終えて	1
各学生レポート.....	2
研修資料.....	3
付録.....	4

重要な日付

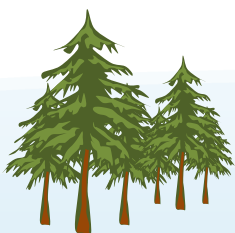
02/06	成田空港に集合でした
02/13	ダイヤモンドヘッド登山
03/03	思い出の写真



今回のプログラムでは英会話能力向上のための学習をはじめ、日系移民の歴史、ハワイにおける仏教の歴史や文化などこれまで知らなかった数多くのことを学んだ。英会話の学習効果について述べると、会話能力が著しく向上するというはなかつたが、普段の生活で使っている言葉をすぐに英語に直してみようとする努力が必要であることなど自分の課題がはっきりと見えた。また、最低限必要な日常会話に関しては、自分の伝えたいことが伝わっていなければ伝わるまであきらめることなく会話を続けることが会話能力の向上に効果があることを実感した。授業で使われる単語は、基礎的な英語を勉強するだけでは分からない部分もあるので留学を考えるのであれば応用的な文章を多く読んで勉強することが重要であると考えた。そして、できる限り訳すことなく英語の意味は英語で理解するという訓練も英語を上達させるうえで非常に必要なことであると感じた。ハワイの歴史や文化については現地で話を聞かなければ分からないことが数多くあった。実際に天台宗や浄土宗のお寺に訪問し、住職の話聞くことでハワイに移住した日系移民の方々が経験した苦しみについてより深く学び、考えさせられるものがあった。特に第二次世界大戦中の日系人が、自分たちは米国に尽くすのだという忠誠心を見せるためにヨーロッパ戦線で必死に戦っていた歴史は高校の授業ではもちろん聞いたことはなく、大学で近代史を専攻している自分も初めて知ったことであつた。この歴史は絶対に日本人は知らなければならぬものであり、風化させてはいけぬ歴史である。もし風化させてしまった場合は、式典などでいくら世界平和について語り、祈ったとしても日本の説得力は薄くなってしまふであろう。そのようないい加減な国にならないようにはまず学んできた自分たちが周囲にしっかりと伝えていかなければならぬ。

プログラムの内容は非常に充実していた。授業の一環である I n t e r c h a n g e という現地の学生と交流する時間が多かつたことで、現地の学生の普段の生活や趣味を知ることで文化の違いを感じた。また、大正大学以外の日本から来た学生と交流することもできて自分にとってはとても良い刺激になつた。ハワイ大学の学生のうち数人が「日本人は本当におとなしい」と言っていた。日本では選んだ言葉に間違いがあると恥ずかしい、良くないことという気持ちになるから比較的物静かでおとなしい民族であると言われると推測する。確かに、英語圏の文化では躰きなながらも話そうとする努力をしなければ相手に失礼であるという考え方が存在すると思われるが、自分の場合は普段の無口な性格を無理やり変えて話そうとすることによって違和感、あるいは自分に対する嫌悪感が生じてしまうことがあつた。間違つたことを言うのが恥ずかしいという理由で英語をしっかりと話そうとしないことは

英会話の上達には繋がらないが、本来自分が持っているおとなしい性格などは海外にいても否定する必要はないと考える。なので、自分から語りたと思った時に最後まで諦めずに伝えたいことを伝えようと努めることが本当の意味で英語コミュニケーション能力の向上につながるのではないかと感じた。



私にとって、ハワイでの3週間の滞在は初めてのことばかりだった。もともと今回が初めての海外というもあり、出発するまでは全くハワイでの生活が想像できなかった。そして、実際にハワイに到着してもなかなかハワイに自分がいるという実感が湧かずにいた。到着して2日後に授業が始まり、道を歩いているだけですれ違う人全員が英語で会話しているのが聞こえ、そこから徐々に自分がハワイにいるということを実感していった。

驚いたことも小さいものや、後から思うとハワイにいるのだから当たり前というものを含めると数え切れないほどあった。驚いたことの一つ目には、ほとんどの人が気さくな性格であることである。これは何となく分かっていたことでもあったのだが、実際には自分の想像していたよりも気さくで、少なくとも私が出会った中では、お互い初対面でも声をかけた瞬間に笑顔で応じてくれる人のみだったことにはとても驚いた。二つ目には、これはハワイにいるのだから当たり前なことだが、友人同士でひそひそ話している言葉も、自分が部屋にいるときに外から聞こえてくる騒ぎ声もすべてが英語であることである。私にとっては初めての海外ということもあり、今まで英語は授業の時や自分が勉強する時のみ聞いていた言語であったため、こうやって日常の言語が英語で溢れているということにハワイにいるという実感も沸きつつ驚いてもいた。

ハワイでの3週間の生活は、平日の午前中はしっかりと英語の授業を行い、そのほかの時間はバスケットボールの試合観戦をしたり、宗教を学んだり、実際に浄土宗別院や天台宗別院に行った。また、ホノルル動物園やホノルル美術館、ダイヤモンドヘッド、日本文化センターに行ったり、ダウンタウン巡りもした。

バスケットボールの試合観戦では、まず会場が想像していたよりも遥かに大きくて立派だったことやそれが大学の敷地内にあることにとっても驚いた。スタジアムの周りには食べ物や飲み物が販売されていたり、仮装した人が立っていたりととても盛り上がりしており、私自身も楽しく過ごすことができた。

浄土宗別院や天台宗別院では日本でも経験したことがないことや、仏教に関する話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができた。

日本文化センターでは、日系移民の歴史や今までは日本からの視点でしか聞いたことが無い戦争の話をハワイからの視点で聞くことができとても興味深かった。

ホノルル動物園ではあらかじめ動物園にいるそれぞれの動物の説明がところどころ空欄になっているプリントが配布され、その空欄を埋めながら回っていった。動物園の中ではクジャクが放し飼いにされていたりと日本の動物園と違うところいくつか驚くところはあったが、空欄を埋めていくという作業があったためか、じっくり動物園内を歩くことができとても楽しかった。

ホノルル美術館では、様々な国の道具や有名な画家の絵、また現代アートが数多くあった。もともと美術館が好きなのでじっくり見すぎてしまい全てを見れずに終わってしまったが、それでもたくさんの展示物を見ることができ、良かったと思う。

ダイヤモンドヘッドは、40分ほどかけて頂上まで登った。一番最後で長い階段があり、とても疲れたが頂上はもちろん絶景であり、海もハワイの街並みもすべて見渡すことができ、それを見た疲れを忘れるほどだった。とても貴重な経験になったと思う。

私はこのようにハワイに行ったことによってたくさんの刺激をもらいたくさん学ぶことができた。もともと大学に入学したころから海外で少しでも勉強で来たらいいなという思いがあったが、今回の語学研修でその思いを叶えることができ、とても満足している。また将来は最近になってやりたいことが徐々に決まりつつあり、そのやりたいことにとっても今回の語学研修はとても良い経験になったと思う。英語ができなくてなかなか上手く会話が進まないこともあったりとすべてが楽しいことばかりではなかったけれども、初めからこのように思うようにならなかったこともあってこそだと思っていたので、この経験を生かしてこれから益々英語を勉強しようと思っている。そして、ハワイだけではなく、将来様々な国に行き、英語以外の言語やその土地の文化を学びたいと思っている。



はじめに、今回のハワイ大学語学研修を無事に終えるにあたって、たくさんの人々の協力と応援があったこと、共に語学研修を受けた仲間たちの支えがあってからこそ成し遂げられたことである。

海外は今回で4回目になるが、滞在期間が短かったこと、あくまでも旅行であったため学ぼうという意識がなかったため、学んだことや感じるものはあまりなかった。

しかし、ハワイ時間の2月6日から2月27日の3週間で語学はもちろんのこと、ワイキキの街並みから異文化を肌で感じ取ったこと、大正大学ならではの日本の仏教に関する経験を海外でできたこと、16人の仲間と過ごした日々は私自身の価値観や考え方に非常に大きな影響を与えた。

まず、文化の違いについて日本にいる間、アメリカは銃社会であり普段拳銃を携帯している、さらに、銃が自由に使えるためテロなどが頻繁におこるなどといったアメリカに対するネガティブなステレオタイプのイメージがとても強く、留学に際して期待感とともに臆病な性格ゆえ、大きな恐怖も感じていた。しかし、実際はハワイであったからと理由もあるかもしれないが、数日間過ごしているうちにいつの間にか恐怖はなくなり、私のアメリカに対するステレオタイプは消えていった。

また、海外から自国を考えるととてもいい機会になった。日本に住んでいて気が付かなかったこと、海外と日本の相違点を見つけることは未来の日本にとってとても大切だと感じた。

海外での日本の仏教を経験したことはこの研修で一番いい経験であった。

なぜなら、私は将来僧侶となるため大正大学で仏教を学んでいるが、大学、日本だけでは学ぶことが出来なかったであろうことを学ぶことができたからである。

寺院の造りや、お参りにやってくる信者の人々の会話は文化の違いならではのまた日本と違った仏教に対する価値観、考え方を知ることができた。人々が仏教に求めるもの、我々僧侶が人々のためになせばならないこと、今回得ることができた人々の考え方、価値観を踏まえて仏教のため、日本のため、人々のために考えていきたい。

最後に私を含め今回の語学研修に参加した16名の仲間と引率の先生3名、計19名のメンバーにもたくさんの影響を受けた。各個人の英語能力のばらつきや集団行動の得意不得意、メンバー全員が非常に濃い個性をもっていたため、大変な思いした場面がいくつかあったが、日々過ごしていくうちにその人の価値観や理解を深め合い、まったく新しいもの見方や考え方を知ることができた。成人としてこのような長い期間団体行動を行うことはこの先ないであろう。

以上、私が今回この語学研修で学んだことである。



私はこれまで海外に出たことがありませんでした。そのため、今回の語学研修が初めての海外になりました。この報告書では私が今回の研修で強く感じた二つの事を述べていきます。

一つ目は英語学習についてです。

今回の研修では全ての授業が英語で行われました。授業は週五回の英会話の授業と週一回のハワイ史の授業という構成です。

授業で一番戸惑ったのは、やはり全て英語で行われる点です。授業で教授が何を言っているのか少しも分からない、というのは初めてのことでとても困りました。どこに重きを置きたいのかが分からない、どこまでが例えなのか分からない、話の切れ目が分からない、といったことが特に混乱する原因だったように思います。授業の理解しやすさで言えば、あくまでハワイの歴史について話していると推測できる分、英会話より専門の授業の方が分かりやすかったかもしれません。

逆に今回の授業で最も良かったと思える点は皆で学ぶということが出来た点です。教授の言った内容を皆で考えるなど、一つ一つの事を皆で理解していきました。このような理解の仕方こそがこれまで私が授業で受けたグループ学習の理想なのだと感じました。しかし同時にこれが成り立ったのは、16人という少人数授業で、全員が語学研修に参加するほど高いモチベーションを持っていたという前提があったからこそ出来たことで、これを日本の一般の授業で行うのは不可能に近いと思います。ですが、今回の学習で様々な理解の仕方があると知れたことは私の今後の学習や将来の仕事で必ず役立つと感じました。

二つ目は文化の壁です。

私は英語が得意ではないのですが、出会った方々は単語の羅列でも意図を理解してくださり、当初思っていたほど言語の壁は感じませんでした。

代りに感じたのは文化の壁です。

例えばバスケの試合でのブーイング、相手チームのオフenseになった途端巻き起こったブーイングの嵐に私は付いていきませんでしたし、合わせようという気にもなれませんでした。また食の違い、買い物の違い、そういった些細な違いが私には受け入れがたいものでした。異文化理解と言いますが、理解することと受け入れることは違うのだと感じました。正直文化の差は私に海外で暮らすのは絶対に無理だと考えさせるぐらいに厚く深く高いものでした。

ですが、そのことと仲良くなることは別でした。

出会った多くの方と楽しく会話したり、素敵なひと時を過ごすことが出来、メールアドレスを交換することもありました。SNSの連絡先を交換し交流している人もいました。文化の違い、宗教の違い、生まれ育った環境の違いはおそらく一生越えることのできない壁です。それでも、そのことが仲良くなれない理由になることは絶対にはないのだと分かりました。今回の研修でそれを知れたことは、絶対に私の一生で出来る友人の数を増やすだろうと思います。

語学研修で私は他にも多くのことを感じました。この報告書で述べたことはその一部にすぎません。語学研修を終えて考えることは人それぞれだと思います。良かったという人もいれば、行ったことを後悔する人もいると思います。ですが、海外は食わず嫌いするにはあまりに多くのことがあります。もし失敗するとしても、学生の内なら許されることが多くあります。来年、また多くの方がこの研修に参加することを祈っています。



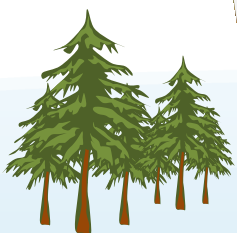
今回、ハワイ大学への語学研修を通して得たものがたくさんある。私がこの語学研修に参加した理由は、海外に行ったことがない私にとって“想像の国”であった外国に実際に行って歴史や異文化を学ぶ、特に日常出会う機会が多い英語の理解を深める、さらに自分自身の消極的な性格を変えるためだった。約1ヶ月の研修を終えた今、たくさんの経験を通して私自身、変化を感じている。ここでは生活、授業、研修の3つに焦点を絞り、ハワイでの経験を報告する。

生活については、日本との違いに驚くことばかりであった。まず、部屋にはゆっくり浸かれる湯船がない。座りたいのに立つしかなかく、シャワーも位置が固定されているので自分で動き回るしかなかった。また何度か利用したスーパーでは、日本では商品をかごに入れたまま店員に渡すが、ハワイでは全て客がかごから出す（ちなみに空になったかごは適当に床に置いておく）。また大きなお店ではレジカウンターがベルトコンベア式になっており、次の客の購入品と混ざらないよう仕切り棒（これも客自身が）置く。このような日本との違いには、驚きつつも新鮮でとても面白かった。最初は勝手が分からなかったが、現地の人たちは親切にしてくれた。また大学内には食堂、図書館、ベンチがたくさんあり、1人で、あるいは友人と勉強をしたり楽しくに食事やおしゃべりをしてきた。ジムやスポーツコートも申請を出せば自由に利用できる。学生たちは放課後、友人たちとあるいはクラブ活動で、スポーツを楽しんでいた。

授業において感じたことは、常に学生はアクティブに授業を受けなければならないということだ。いや、受けるというよりも“参加する”という表現が適切だろう。日本では、授業という基本先生や教授の講義を椅子に座ってただ聞いているだけだが、ハワイは違った。先生は、問いを投げかけるだけ。生徒はそれを受け取り、生徒同士で（時には先生も巻き込んで）議論をする。自分の意見の押し付けではない。しっかりと相手の意見も聞きながら、どんどん議論を深めていく。議論をするには、勿論前提として議題に関する知識が必要だ。そのため学生は授業に関する予習・復習も怠らない。勉強だけではなく自分から発言したり皆の前で意見を発表したり、とにかく学生には“積極性”が求められることを知った。実際に私たちははというと授業が始まってから数日は皆恥ずかしくて、間違ふことや否定されることを恐れなかなか自分から意見を主張できなかったが、授業を重ねていくにつれ“間違ってもいいのだ”と思えるようになり、それぞれが意欲的に授業に“参加”することができた。歴史と宗教の授業でもグループで協力して答えを探し、まとめ、時には他のグループからも資料や知識を借りながら勉強をした。一方英語に関しては、日々実力不足を感じさせられた。日本語ですぐ出てくるのに、英語で表現できない。語彙力や英文構成の遅さを身にしみて感じたが、クラスの先生は急かしたり責めたりせず、私たちが伝えようとしていることを汲み取り、熱心に理解しようとしてくれた。やさしく指導してくださった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいである。

研修において、私たちはさまざまな場所を訪れた。特に印象深かったのは「ハワイ日本文化センター」とPearl Harbor研修である。今回の研修の大きな目的のひとつである“異国の歴史を知る”という意味で、とても興味深い体験をした。「ハワイ日本文化センター」では、日系移民の始まりから太平洋戦争の終結までの社会の変遷、そして人々の生活や想いをたくさんの資料と解説の方のお話とともに学んだ。Pearl Harborでは、太平洋戦争で実際に戦ったミズーリ戦艦に乗船し、太平洋戦争におけるミサイルや魚雷、降伏文書のレプリカや、当時のままの乗組員の部屋や食堂、さまざまな機械やそれらを動かす運転室を見学した。また日本語解説員の方に付き、降伏文書が署名された実際の場に立ったことで、歴史の重大さを感じた。他にもポーフィン潜水艦博物館やアリゾナ記念館を見学し、太平洋戦争に関するさまざまな資料や解説を通じて、戦争が残した爪あとを深く考えさせられた。興味深かったのは、戦争という歴史的な出来事を“アメリカの視点で”考えることができた点である。日本にいるとどうしても日本に関する資料を多く目にし、“日本が”被った被害、“日本の”人々の苦しみといった、日本がいかに他国に傷つけられたかという印象を強く与えられ、重大な歴史的事実を日本寄りの偏った視点からしか考えることができないだろう。しかし今回Pearl Harborを見学し、日本からではなく他国の視点から戦争というものを考えることができた。正直他国がどれだけの被害を受け、犠牲を払い、どれほどの苦しみを味わったのか、そして戦争終結のきっかけとなった広島と長崎への原子爆弾の投下を指示した人々の本当の思いを私は考えたことがなかった。日本の敵国は全員悪だと思い込んでいた。だからこそこの研修は、私にとってとても重要な、そして決して忘れられない経験となった。私が学びたいと思っていた異国の歴史は決して日本と無関係ではなく、むしろ日本と密接に関係する歴史であった。

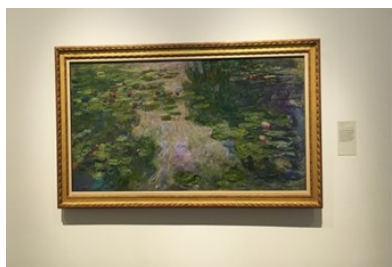
今回、語学研修を通して、私の目的は果たされたと思う。さまざまな研修地で歴史を学び、日常生活の中で異文化を学んだ。英語に関する理解という点では、当然だが明らかに日本と比べて英語に触れる機会が多い中、英語を話す・聴く力が格段に向上した。さらに日々の生活を通しての語学研修メンバーとのコミュニケーション、またハワイ大学の学生や一般市民の方々との交流を重ねていくうちに、自分自身の消極的な性格も変えることができた。経験者として、次世代の海外語学研修に参加する人、または迷っている人に“Catch the WAVE!”という言葉を送りたい。これは私にとっても今後の座右の銘である。“波を掴め”の波というのは、自分にとっての絶好の機会のことである。私は今回の研修は自分にとってとてもよい機会だと感じ、参加した。結果、この報告書には書ききれないほどの経験をすることができた。自分にとって“良い波”か“悪い波”かを判断し、“良い波”には積極的に挑んでほしい。もちろん楽しいことばかりが待っているわけではないが、きっと困難を乗り越えたとき自分にとってかけがえのない経験とプライドが身についている。



私は、この集中講座に参加したことによって、観光地のハワイではないもうひとつのハワイを知ることが出来たと感じている。文化の違いや習慣など数多くの日本との違いを感じることが出来た。ここでは、私が実際ハワイに行き日本との違いを感じたことを日本と比較しながらまとめ、報告書とする。

まず、チップの文化があることである。チップ制度はハワイなどの国にある習慣である。これは日本にはない制度であるため今回初めてチップを支払った。日本ではあらかじめサービス料として料金に含まれていることがあるが、海外ではサービス料として15~20%のチップを別途で支払うという習慣がある。外国では当たり前の文化であるが、日本にはないお金に関する文化の違いを体験することができた。

次に、私が日本と異なると気づいたことは、ホノルル美術館に展示されている作品と観覧者の距離が近いということである。日本の美術館では、現代アートから古い作品までジャンルを問わずほぼ全ての作品に透明のショーケースや作品前に柵があったとなんらかのバリアがされている。しかし、ホノルル美術館に展示されているものほぼ全ての作品がそのまま置かれているだけである。例えば、あの有名なモネの「睡蓮」の絵画でさえも柵など何もなく展示されているから驚きである。物質的なバリアがないことによって、その作品の細部にまで注目して鑑賞することができ、作者の当時の思いが絵によって表現されているということがよく分かった。



次に、ハワイと日本の休日の捉え方の違いについてである。集中講座の3週間のなかでプレジデントデイという祝日があったのだが、この日は大学も休学で街中も静かであった。日本の土日祝日は街には人が溢れるほどになり、店も閉店時間が平日よりも1時間長かったりする。しかし、ハワイにはアラモアナ・ショッピングセンターという現地で人気なショッピングセンターがあるのだが、そこは平日よりも2時間早い19時に閉まってしまう。日本では集客する土日に躍起になって仕事をするという習慣があるため、ハワイでは休日は休むというスタイルがあるのかと思った。

ハワイでの移動については車かバスであり、そのバスについて日本と異なる場所があった。まず、乗車賃は一律\$2.50であるのだが、小銭がなく大きな紙幣で支払ってしまうとお釣りが返ってこないのである。日本ではまずお釣りがないということはまずありえないことであるが、これもチップ制度のある外国ならではの習慣であるのかと思った。そして、下車するとき日本ではボタンを押して降りるが、ハワイのバスはヒモを引っ張って停車の要望をするのである。さらに、降りる際にドアを手動で抑えていないと扉が閉まってしまうのだ。また、老人や小さな子供が乗車してくるとすると現地の人たちはすぐに席を譲るのである。日本人にはすぐに席を譲るということは恥ずかしかったりトラブルに繋がる恐れがあったりとなかなかできない。人に親切にし、その親切を素直に受け取るハワイの人たちの考え方が素晴らしいと感じた。

次に、ハワイと仏教と移民についてである。私たちは天台宗の荒見寛先生にお会いし移民についてのお話を聞いた。そこで聞いた移民についての歴史を実際に見て学ぶため、私たちはハワイ日本文化センターに行き日本からハワイへの移民についての歴史を学んだ。

ハワイには日本人のような顔をしているが英語を第一言語として話す人がいる。このような人達は日系と呼ばれるが、なぜ日系人が第一言語として英語を話しハワイに住んでいるのかというと、移民の歴史が大いに関係しているからだ。日本からハワイに正式に移民が来たのは1885年である。当時、日本では失業者が増加、ハワイではサトウキビプランテーションの労働者不足という問題をそれぞれ抱えていた。お互いの利害が一致したため日本からハワイに労働者として移民が来たということであった。この移民の子孫が日系二世・三世として現在もハワイに住んでいるのだ。私は、日本人の顔であるのだが英語しか話せないということが非常に不思議であったが、このような歴史が関わっているということを知っていなかったらその感情のままであったと思う。そのように思ってしまうことは自分の視野の狭さを感じた瞬間であった。

以上が、私が3週間で感じた日本との大きな違いである。言語という最も大きな違いについてストレスを感じることもあったが、だからこそより英語を勉強したいと強く思った。今回のこのハワイ大学集中講座では行って初めて気づいたこと、また、このプログラムだからこそ知り得たことが多くあった。



ホノルル美術館の様子



今回のハワイ大学集中講座では言語、文化、歴史といったハワイに関する様々なことを学ぶことができた。またワイキキビーチ、ダイヤモンドヘッド、ショッピングセンターや、博物館などの主な観光地に出かける機会も設けられていた。そのなかで私はハワイと日本の関係において最も重要となるものであるハワイ日系移民の存在に注目した。

1868年に仕事を求め、ハワイに渡った人々が初の移民集団の「元年者」は、過酷な労働に耐えて、日本のコミュニティを作り、価値観と習慣を守り続けた。その後、政府によって渡布が禁止されるが1881年のハワイ王の直訴により、正式に移民が許可された「官約移民」という制度が誕生する。正確にはこの時点では移民ではなく出稼ぎであった。官約移民制度は、日本人が増えすぎたために渡布が禁止になる1924年まで続いた。日本人の最終的な渡布人数は22万人に上ったという。最初は出稼ぎとしてハワイに渡った人々は、本土から写真を介して嫁を呼び、家庭を持つことにより本格的にハワイの移民となっていた。

日本からハワイへの移民について事前研修や予め読んでいた本で把握はしていた。だが、2月19日に見学に行った「ハワイ日本文化センター」の「OKAGESAMADE」という展示室に展示されている移民の渡布の際の荷物、プランテーションの仕事内容や労働の待遇、生活などを目で見ながら、ガイドの方の詳しい解説を聞くことで、日系移民への理解がより深まった。文化センターのなかで私が特に感銘を受けたものは、最初に展示されている「犠牲」、「義理」、「名誉」、「恥」、「誇り」、「責任」、「忠義」、「感謝」、「仕方がない」、「がんばり」、「我慢」、「恩」、「孝行」の13の日系一世が忘れられない日本語が彫られている石碑だ。日系一世たちは非常に過酷な労働に耐えながら、日本人としての価値観を忘れずに、日本の習慣を守り続けたことにより、現在でも続く日系社会が作り上げられて行ったのだ。

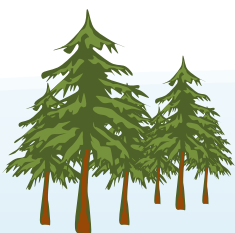
今回の集中講座では2月12日に天台宗の寺院、14日に浄土宗の寺院を訪れ、住職の話を押聴した。浄土宗の寺院では日曜礼拝に参加したが、礼拝に来る人々は日系人が多いようであった。ハワイにはじめて仏教が入ってきたのは、1898年に浄土真宗の曜日蒼龍師が布教に来たことだ。ハワイに仏教が広められた理由は、過酷な労働に耐える移民たちの精神的な助けになるためであった。浄土真宗はプランテーションオーナーとのミスコミュニケーションが発生したため一度布教が中断されるが、仏教の別の宗派が続々とハワイで開教されていった。

さて、一世の元に生まれた子供は日系二世であり、彼らはアメリカで生まれたため国籍はアメリカとなる。二世の多くは、昼間は公立のアメリカの学校に通い、午後からは日本語や日本の習慣を学ぶ日本語学校に通うという生活を送っていた。だが、日本のことを学んでも、実際に生活をしている場所はアメリカであったためか、二世の価値観はアメリカ人という風になっていった。

第二次世界大戦の際には日本軍のパール・ハーバー奇襲攻撃、日系人は顔と血筋が日本人であるという理由からアメリカ市民であっても敵国人として迫害を受けるという辛い立場に置かれるようになる。アメリカ軍によって影響力が大きいとみなされた日系人は次々とオアフ島や本土の収容所に送られていった。アメリカ軍に捕えられた人々を救うべく、残った日系人は軍のボランティアや、志願兵になるなどをしてアメリカに忠誠を誓った。そのためアメリカ軍には日系人のみで構成された「第442連隊戦闘団」(以下442隊)という部隊が存在していた。442隊はヨーロッパで活躍し、アメリカ史上最も多くの勲章を受けた部隊だ。戦後、442隊の帰還兵たちは勉強をし、政治家や教育者や医者となり、ハワイの政治、経済、社会に大きな発展をもたらした。

私が、442隊の事を詳しく聞いたのは2月14日に訪れた天台宗の寺院で現天台宗ハワイ開宗総長としてご活躍されている荒了寛先生のお話からだ。442隊の優秀さ、価値観、軍への志願の動機、戦後のハワイへもたらした影響などを聞き、私は「同じ日本人として」誇らしさを感じてしまった。しかし、日本文化センターで彼らのアメリカ人としての価値観、戦時中の立場などを知り、彼らは「日本人であり、アメリカ人でもあるが、どちらでもない」のではないかと感じた。私たちの考えの中で染み付いた人種、〇〇人といった概念は本来なんの根拠もないあやふやなものであり、国籍という制度は表面的な効力しか持たないと軟いものなのではいだろうか。

ハワイにはプログラムで訪れた場所以外にも、ダウンタウンのチャイナタウンの近くにあったハワイ出雲大社、ホノルル島最大の植物園であるフォルター・ボタニカル・ガーデンの園内には鎌倉の大仏のレプリカや日本人学校跡地などがあつた。調べてみると、ほとんどが日系移民に関するものだということが分かった。研修の中でハワイについて学習し、様々な場所に行ったことで、日本とハワイは移民という存在により歴史的にも文化的にもとても深い繋がりを持っているということに改めて認識することができた。



私は大学院進学を目標にしており、大学院進学テストに英語が必須であるという理由から少しでも英語に慣れるべく、この語学研修に参加しました。ですが、実際に語学研修に参加することで、自らの想像をはるかに超える刺激を受けることができました。海外の文化や海外の人々との交流を通して、もっと海外の人々とコミュニケーションを取りたい、海外の文化について知りたい、海外に出ることで自らの視野を広げたいと感じるようになりました。

普段、大学の英語の授業ではクラス全体が受け身で、発言すると悪目立ちすることが通常ですが、海外の大学の授業では自ら発言することが通常であると聞いていて、実際ハワイ大学の授業では、自ら積極的に発言ができたと感じています。

また、参加前は全て英語の授業なんて理解できるはずがないと思っていましたが、ハワイ大学の先生方は、私たちが理解できるまで何度も説明してくれ、徐々に言っていることがスムーズに理解できるようになりました。先生方に限らず、ハワイ大学の生徒も私の話を理解しようとしてくれ、うまく文章にできなくても話そうとする姿勢が大事なのだと感じました。新しい友達は、私が日本ではしないような話をしてくれ、毎日が新しく、大学で会うと皆挨拶をしてくれ、この三週間、毎日が楽しみでした。

海外にいることによって、英語を話すことを強制される機会が多くなり、自分の伝えたいことを英語に直そうとする過程こそが英語の上達を助けると考えた。3週間の滞在で英語ができるようになったかはわからないが、明らかに英語を学習するモチベーションは上がった。現地に行ってみて、もっと英語でコミュニケーションを取りたい、海外の人と仲良くなりたいたいという気持ちが強く芽生えたためだ。また、英語を積極的に使おうという度胸もついた。自分の英語力が乏しいために今までは授業以外で英語を使うことをためらっていたが、海外の方は理解しようとしてくれることがわかったために、これからは積極的に英語を話したいと考えた。

普段の日本での生活では、宗教について考える機会が少なく仏教徒であるという意識も低かったが、海外では人々の宗教観が強く、また、プログラムでハワイにある寺院を訪れたことにより、自らの信仰宗教である仏教について学び、次回渡米した際には宗教についても現地の人々と話せるくらいの知識は身につけたいと感じた。また、ハワイのいろいろな寺院を巡り、同じ仏教でも宗派によって礼拝の仕方が異なり、考え方も違うことがわかり、仏教の宗派によっての違いや、仏教とキリスト教の違いなどについても調べたいと思いました。私が一番充実したと感じるのはインターチェンジであった。予め会話をする相手が決まっているため、その回の会話をすんなりと始めることができ、集中して会話できたと同時に、私と同世代であるために共通の話題があり楽し

ハワイには日本人観光客だけでなく、日系移民の2世、3世の方が多くいるため、日本に興味を持ってくれる人が多く居て、とても嬉しいと感じたと共に、友人を作りやすく、楽しい学校生活を送ることができた。また、ハワイ日本文化センターでの日系移民についてのお話はとても興味深く、日本の歴史の授業では習わないことを知ることができた。今後は、パール・ハーバーでの奇襲攻撃後から現在に至るまで、日系人がどのように信頼関係を築いてきたかについて詳しく調べたいと考えた。

海外の授業では積極性、自発性を求められ、自ら進んで学ぶという姿勢が身につきました。内発的動機付けは学習効率を上げると言われています。ですが日本の大学授業では、先生がひたすら話し、生徒はそれを聞くばかりで、急に質問は無いかと聞かれたところで、不意打ちで一瞬浮かんだ疑問も出ない程の時間しか与えられず、授業にも来なくなる人が増え、結局テスト前に焦って出席率の良い人に集ると言う日本の典型的な大学生が増えるという悪循環になるのだ、そのため日本ももっと自ら積極的に授業に参加する海外風の学習にするべきではないかと考えました。



かった。



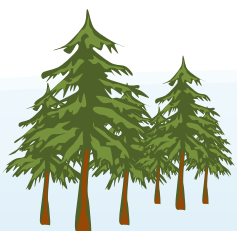
今回、3週間ハワイ大学語学研修に参加した。私にとって初めての海外経験であり、全てが新鮮で貴重な体験となった。ハワイで生活する中で、他国の文化を肌で感じ現地の人々と交流することで、他国の文化を学びつつ日本を客観的に見つめるいい機会になった。ここでは、この研修を通して感じたことを報告したい。

まず、ハワイに滞在する中でハワイの人々の明るさを感じた。日本人は人見知りをする人が多く、初めての相手にはなかなか心を開けなかったり、緊張したりして気まづくなってしまうことも珍しくない。しかし、ハワイ大学の学生とインターチェンジをした際、初対面にも関わらず気まづい雰囲気になることは一度もなかった。明るくて、まるで初対面でないかのようにフレンドリーだった。日本と違い、人見知りをしている人のほうが珍しかった。また、買い物をしているとき、お店のレジで店員がお客さんに楽しそうに話しかけているのを何度も見かけた。ハワイではそれが普通なのだろうか。日本では、何か用がある以外に見知らぬ人に話しかけることはまずないだろう。このフレンドリーな雰囲気が、ハワイに人が集まる理由の一つなのかなと感じた。私自身、少し人見知りをすることがある。しかしこれからは、ハワイの人々のように自分から積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思った。

次に、ハワイでの授業についてである。私が、大正大学で履修している英語の授業は外国人の先生だ。その授業は主にポランティア制で、積極性が求められる。その先生のポリシーでそのような制度をとっているのかと思っていたが、ハワイでの授業もまさに同じだった。主にポランティア制をとり、自ら進んで授業に参加しなければならない。また、生徒同士でディスカッションする時間を与えられることも多かった。一方で、日本は参加型というよりも、先生が前に立って話す講義型の授業が多い。ハワイに行く前の自分の授業姿勢を思い返してみると、進んで発言する人達に頼って、ただ時間の流れに任せて授業を受けていただけだった。授業形態一つをとってみても、海外と日本とでそれぞれの特徴が出て面白いと感じると同時に、日本に戻っても積極的に授業に参加していく必要があると感じた。

今回、英語を学ぶことはもちろん、日系移民の歴史についても学んだ。現在、ハワイという暖かい気候ときれいな海、家族や恋人と過ごすリゾート地として多くの人を訪れる。しかし、そもそも日本人がハワイを訪れるようになったのは、出稼ぎ労働として明治元年にハワイに来た元年者がはじまりである。出稼ぎ労働といっても、日本人は奴隷のような扱いを受け、みじめな生活を強いられていた。そんな生活に耐えられず日本に戻った人も大勢いた。しかし、ハワイに残った人々は、ゆくゆくは妻をもち子ができた。その時にできた子供が、アメリカの市民権を持つ日系2世であり移民である。これが、日本人がハワイに来るようになった大本である。日本とハワイの関係性と言えば、太平洋戦争のきっかけとなった真珠湾攻撃が頭に浮かぶが人も多だろうが、それよりも前から、ハワイと日本には深い関わりがあったことを知っておかなければならない。

この留学を通して、私の英語に対する見方は変わった。留学に行く前は英語に対して苦手意識があり、あまり重要視していなかった。しかし、留学に行き毎日英語を耳にして話すことで徐々に耳が慣れていくことが実感できた。一方で、自分の伝えたいことをうまく表現できないもどかしさにも直面した。非常に悔しいと感じた。もっと英語を学びたいと強く思った。もしこの留学に参加していなかったら、こんなふうに思うこともなかっただろうと思うと、参加して良かったと心から思う。ハワイで過ごした日々は、毎日が楽しくて刺激的だった。英語への関心が上がったのはもちろん、将来の視野も広がった。ハワイでの経験をここでとぎらせることなく、この留学を新たなスタートとしてさらなる向上に励みたい。



このハワイ大学集中講座に参加して、多くのことを得ることができた。例えば、自ら考え行動していく積極性や相手に自分の考えていることを伝える力、英語への関心が高まったことである。その中でも一番大きく自分自身に影響したことは、将来の夢への思いが強くなったことだ。私の夢は、日本の文化を海外に発信することである。ハワイで海外の文化に触れ、海外の人と話すことで日本とハワイの違いを知ることができ、改めて日本について考えることができた。そのおかげで、日本のいいところをさらに海外の人に知ってほしいという気持ちが強くなった。

プログラムの内容で印象に残ったことを3つ挙げる。1つ目はハワイ大学で行われる英語のクラスとインターチェンジである。自分の英語力を再確認させられるものであったが、同時にやる気を起こさせるものであった。クラスで聞き取れない単語があったり、何を話しているのかわからない場合でも、何度も説明してくれたり簡単な単語に言い換えたりしてくれた。一度で聞き取れるようになりたいという気持ちが起き、単語の勉強に取り組むようになった。また、インターチェンジでもゆっくり話してくれたり、わからない単語のスペルを教えてくださいと学びながら楽しく会話することができた。共通の話題や話したいことがあると拙い英語でも伝えたいという気持ちが強く湧いてきた。英語が話せるようになれば全世界の人と話すことができるようになると考えたら、英語を勉強することの大切さを実感することができた。

2つ目は毎週水曜日に行われた宗教の授業とハワイにある天台宗と浄土宗のお寺に訪れたことだ。宗教について勉強する機会というのは初めてであったし、日本の宗教について学ぶことができた。日本は無宗教だと思っていたが、根本的には仏教などが関わっていることも知った。宗教について学ぶ機会が少なく興味を持つ機会もなかったが、このプログラムを通して宗教の奥深さについて関心が高まった。また、ハワイ大学で行われる宗教の授業では配られたプリントの内容を理解することや自分たちで答えを探す宿題が出たため、英語に触れながら宗教を学ぶことができた。授業で学んだ八正道や十善戒は私たちの日常においても必要なものであると私は考える。特に、正しい努力をすることを表す正精進と間違った見方をしない不邪見という考えをこれからも意識して、行動していきたいと思った。

3つ目はカイルアビーチやダイヤモンドヘッドを訪れ、自然を体感できたことだ。ハワイには至る所に自然があり、リラックスすることができる。勉強だけでなく、自然に触れることができたのも貴重な体験であった。カイルアビーチの海や砂浜、ダイヤモンドヘッドの山頂から見たハワイの街並みは美しかった。裸足で芝生を歩いたり、木に登ったり、日本では体験することのできない息抜きをすることで、自然を体全体で感じる事ができた。ハワイの人が穏やかで気さくなのはこの自然に恵まれた環境のおかげであると感じた。

プログラム以外に自分たちで計画を立て、パールハーバーにあるアリゾナ記念館を訪れることもできた。日本が奇襲した真珠湾戦争について知るべきであると思っていたので、自分の目で確かめることができて良かった。アリゾナ記念館の他にミズーリ戦艦とボウフィン潜水艦も訪れた。ミズーリ戦艦には日本の神風が残した損傷や降伏調印式の書類のレプリカなどが置かれていて、実際に戦争が起きていたことを痛いほどに実感させられた。また、戦艦と潜水艦は中を見ることもできた。アリゾナ記念館では真珠湾戦争がどのようにして起こったのかなどが展示されていた。アメリカ側の視点から見る真珠湾戦争というのは、日本に居ては知ることができないものであるため新鮮であった。戦争の恐ろしさと共に、日本も戦争に参加し奇襲を仕掛けていたということを知ることができた。

自分たちで計画を立ててアリゾナ記念館を訪れたため、歴史を学ぶ以外にも得るものがあった。自分たちで行き方やバスを調べる計画性や複数人で行動するという協調性と行動力が身についた。当日はバスを乗り過ごしたり、時間通りにバスが来なかったりと思いがけないこともあった。しかし、それを自分たちだけで乗り越え計画を達成することができたので、成長できたように感じる。

このプログラムに参加して英語の勉強の他にも学ぶことがたくさんあった。宗教や日系移民の歴史の勉強もそうだが、積極性や会話力、行動力も養うことができた。そして、自分の夢を叶えるために今何をすべきなのか明確になった。英語を勉強することはもちろんだが、日本のことについても学ぶべきであるとわかった。インターチェンジの時に日本人の印象を聞いたら、busy peopleと答える人が多かった。そのイメージを変えるためにも、日本のことを学び、次にハワイに行くときには英語で日本人の魅力を伝えたい。



2016年2月6日から28日までの期間、大正大学のハワイ大学春季語学研修講座に参加した。人生においてハワイは二度目だったが、海外にて3週間過ごすということは初体験であった。また観光と違い、学びにきたということもあり、より英語を積極的に使うことができたと思う。

それではまず、大学内について話す。日本の大学よりも、ハワイ大学では学生の自由度が高い印象を持った。例として、歩道にてスケートボードで走る人がいることや毎日のように学生主催のイベントがあることが挙げられる。

日本においてスケートボードとは、公園や専用の施設内で遊ぶための乗り物である。それに対しハワイ大学では、自転車やバイクと同じように移動手段の一種として用いられており、自転車置き場のそばにはスケートボード専用置き場が設置されていた。

両者の違いは何か。それは安全に対する考え方の差だと考える。日本人にとっての安全は保障されていることが一般的だが、ハワイのような自由社会が浸透している場所ではあくまで自己責任で安全を守る考えが一般的であるように感じた。

イベントに関しては、多くは学生が制作した物を販売する露店だったが、中国旧正月を祝う音楽の発表、呼びかけ運動などその他の形でもみられた。また、構内のブックストアには学生が制作したアクセサリや洋服などを販売しているコーナーが常設されていた。自主性を重んじた学生によるこのような場面は日本にもあるが、参加や実施を行う意欲をもつ学生はハワイ大学の方が多かった。

街中の様子で印象的なことは日本よりもバリアフリーに長けていたことである。その一例として、ここではバスとトイレを取り上げる。

バスにはスロープが内蔵されていたり、優先座席が設置されていたりする。優先座席には、ハワイ住民以外の観光者にも分かるようにか、英語以外に日本語などの他国の言語でも説明が添えられていた。

トイレは障害者用と健常者用で分かれておらず、一つのスペースにくらわれている。またスペース内に段差がなく、広い空間があるため車椅子でも動きやすく作られている。

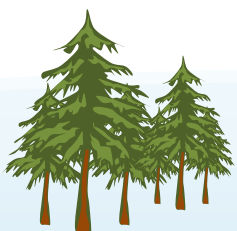
障害という境界線をはっきりとらず、障害をも個性と捉え認め合えるのは日本にも取り入れるべきと考える。

ハワイの宗別院はサンゴの床や高級な仏壇などでできており、日本のお寺とは全体的に違う雰囲気を感じていた。普段、寺社仏閣に関わることは少ないが、今まで般若心経を練習して良かったと感じられた。さらに、荒先生の貴重なお話を聞くことができたため、今まで歴史の授業でしか触れてこなかった第二次世界大戦に関して、より身近に触れることができた。

また、荒先生のお話に加えハワイ日本文化センターでは、日系移民の歴史についてより詳しく学ぶことができた。日本視点でなくアメリカ視点で知ることができたことも大きい。また、その中で生き抜くために米軍へ貢献した日系人の働きは非常に大きいものだったと考える。

私たち平成を生きるものにとって太平洋戦争や第二次世界大戦は遠い過去の出来事に感じる。だが、これは決して日本人が忘れてはならない出来事であることを目や耳だけでなく五感で感じる事ができた。

このハワイ研修に参加することで、自分の視野が広がった。日本とハワイの文化差、また日系移民の歴史は非常に興味深く、今回知ることができたことを光栄に感じる。今後、再びハワイを訪れる機会があれば、そのときはより詳しく調べてみたいと考える。



空港に降り立ち、大地を踏みしめる。じめじめと、まわりつくことのない、からりとした空気。なんとも麗らかで、まばゆい夢見心地。驚きに満ち、苦しくも楽しい生活の幕開けです。日本では当たり前のことが、ハワイではそうではありません。当然のことだと解っていても、いざ目の前にすると驚き、あたふたし、けれどもそこに馴染もうと努めた3週間。鳥のさえずりで目が覚め、芝と木の緑のカーテンに囲まれた大学生活は、日々の生活で生じてくるストレスを吸い取り、より学習に励む手助けをしてくれました。街へ出かけてみてたくさんの自然をみることでまし。温暖な気候だけでなく、自然を大切にしようという意識がハワイの自然を守っています。

丸亀製麺という、日本でも有名なうどんチェーン店がワイキキに店を構えています。ハワイでの生活1週間が経つと日本食も恋しくなり、いざ行ってみると長蛇の列、1時間並んで中に入るとおなじみの注文スタイルでお出迎えです。ハワイで食べるうどんは格別でした。麺の喉越しはしっかりしていて、出汁からはいろんな味がします。ハワイで外食すると最低10ドルは見ないといけません、丸亀は半分の5ドルさえあれば美味しいうどんをお腹いっぱい食べることができます。外食のたびにうどんを食べに行くことになりました。

生活の中で挨拶は欠かせないものです。日本で他人から声をかけられることはあまりありませんが、ハワイではまじまじと顔を見られ正面から挨拶をされることが多くありました。ハワイでは一人が一人としての意識が強く、挨拶は他人を見定める行為としても使われていることがよくわかりました。人種が混ざり合うアメリカ社会と、同じ民族で成り立っている日本との違いでありましょう。

ハワイのお寺では、教会と同じように毎週日曜日に礼拝があります。私もその礼拝に参加し、現地の人たちと一緒に、みんなでお経を称えたり、仏歌を歌ったりしました。おばあちゃんはおかしい孫たちを連れてお寺に来ていました。一昔前の日本の姿ではないでしょうか。お坊さんとの垣根は低く、お互い親しみを持って支えあっていました。これはお寺に限ったことではなく、大学の授業でも似たようなところがあります。教室に円を作って授業を進めていく。先生と生徒の関係は日本の師弟関係のようなものではありませんでした。

ハワイ大学での宗教の授業は今回の研修の中でも指折りの体験になりました。英語はいかんせん解らず、内容は難しく理解できません。考えもしないことを先生は次から次へと私たちに問いかけ、それに答えることができない私たち。とても悔しく、すぐくみじめでした。もっと勉強してやる。その悔しさが3週間の努力につながりました。これまでにないほど勉強に取り組むことができました。良い環境に身を置くことが、いかに大切なことか実感しました。

日本を離れ、異なる文化での生活は、自分の凝り固まった思考をほぐし、心を豊かにしてくれます。恐れず、迷わず、捉われずに、時にはつまずくときもあるけれど、いや、つまずきばかりの人生です。そんな不安も、ハワイの思い出を振り返りながら、楽しんで乗り越えていきたいです。



私はハワイ大学語学研修に参加し、多くのことを学ぶことができた。その中で私の印象に残ったことをいくつか書きたい。

一つはハワイ大学の学生達についてだ。ハワイ大学の学生達はとても自立していると私は感じた。実際に話を聞いてみたときもそれぞれ明確な将来の展望を持ち、自分自身でその為に必要なことをしていた。日本の大学生だとまだ家族に扶養されているといった感じがするがハワイ大学の学生達は完全に個人として自立、もしくは一人でも平気なぐらいの力を持っていると感じた。また、ハワイ大学の学生達はとても自由に過ごしているように見えた。大学内でスポーツをしていたりボランティア活動のイベントをしていたりと、とても意欲的で自分のしたいことをしている。そしてそれは自由と同時にその責任も自分で持っているのだと思った。

二つ目はハワイという場所についてだ。ハワイにはいろいろな人種が存在している。それは大学内でもそうであり、私達が日本人だからといって特別目立つことはなく溶け込んだ。もしここが日本なら外国人はとても目立ち、よそよそしく接されることもあるだろう。日本は良くも悪くも日本人と外国人とをはっきりと分ける傾向があるからだ。しかし、ハワイではいろいろな人種が混ざりつつお互いを尊重しあってそれぞれが生活をしている。これは実はとてもすごいことなのではないかと思う。けれども、そもそも人間は人間であり、当たり前のことなのだとも思った。それと同時にグローバル化が進んでいく中で起こり得る問題の解決策もきっとこの中にあるのだろうと感じた。

また、ハワイは独特な文化を持っている。今回のプログラムで私はそれらに触れる機会を得た。アロハシャツが正装にも普段着になることには本当に驚いた。ハワイ語やフラも学べた。ポイというタロイモからできたペースト状のハワイフードの味には衝撃を受けた。こうしたことも実際に体験したからこそ言えるだろう。本当に貴重な体験だった。

三つ目は授業についてだ。授業では私達は積極的に意見を言うことや自分から動くことを求められた。日本の授業だと基本的に先生が講義するだけということが多いので随分と異なる。アメリカでは自分の意見をはっきりと言うのは当たり前のことであり、自分を主張するといったことがとても重要視されているのだろう。逆にそれをしない人はこのことに興味がないと判断されたり、意見を持たない人と思われたりしてしまう。そんな中で私は積極的に質問をする大切さを知った。なぜなら授業中に質問をしなければ理解されたものと思われ、決して止まってはくれないからだ。そのかわり一度質問をすれば納得のいくまで説明してくれる。おそらく、私の話した英語は殆どまともな文にすらなっていない、発音も拙いものだったがハワイ大学の先生、学生達は辛抱強く聞いてくれた。もどかしい思いもしたが自分の伝えたいことや相手の言っている意味がわかったときは本当に嬉しかった。チャンスを待つのではなく、作るこそが重要なのだと理解した。

四つ目は戦争と日系人についてだ。特筆として書くことは私が日本ハワイ文化センターに行き「おかげさま」という常設展を見たこと、そしてパールハーバーへ行ったことだろう。「おかげさま」では日系人の歴史を見ることができ、パールハーバーでは異なる視点、日本から見た戦争ではなく、アメリカから見た戦争について知ることができた。自分達の故郷を離れ、過酷な労働に耐えながらもこの地で生きてきたこと。戦争になり、迫害を受けつつもアメリカ人として家族や国を守るために戦ったこと。それは想像ができないぐらいの苦労だっただろう。そうした過去があり、今に続いているのだ。私は今回のプログラムに参加しなければこうした日系人について詳しく知ることはなかっただろう。日本ではまだまだ日系人について注目されていないからだ。けれども、日系人のことを知ることは日本人を知ることであり同時にアメリカ人を知るために不可欠なことだろう。

以上が私にとって印象に残ったことだ。もちろん他にもいろいろな思い出がある。良いことだけでなく失敗もあった。しかしながら今では全てが私にとってかけがえのないものとなった。私は英語で話す楽しさを知り、文化に触れる面白さ歴史を知る重要性、自分から行動していく大切さを学んだ。今回の経験を生かして、私はこれからを過ごしていきたいと思う。



私は、今回のハワイ大学での語学研修を経て、様々な経験を積んできた。英語の基本的な技能とされる話すこと・聞くことを中心に、書くことに関しても学んだ。また、英語のコミュニケーション能力が格段に向上した。日本語であってもあまり自分の意見を述べることは得意ではなかったが、その点についてもかなり改善されたように思う。実際に、出国前に英語を話すことのできる知人と会話をした際には、うまく自分の言いたいことを伝えることができなかったが、帰国後は英語での会話が成り立つようになった。ある程度英語の聞き取りができ、会話ができるようになったからこそ、消極的ではなく自分から積極的に話すことができ、他国の方との会話も楽しくなってきた。本来これこそが言語であり言葉である。今後も様々な国に行こうと思っているため、大いに役立っていくだろうと思う。

今回の研修では、ハワイの宗教や文化、歴史等についても学ぶことができた。以下において、その内容について述べていきたいと思う。

第一に、ハワイの宗教に関して述べる。

1778年にキャプテン・クックがハワイにやってくるまでの間、ハワイの人々は、神々・精霊・祖先といった存在を信じながら生きてきた。また、特別な力を有する人間がいるということも信じていた。特に、神々に属する特別な力をマナと呼び、とりわけ重要視されていた。これは、日本における神道とも通じる考え方である。ハワイの原住民は、自然の元では皆平等な関係にあると考えたのである。それ故に、火山を司る神とされる女神ペレを始め、数多くの神々を崇めるアニミズムの思想を持った。

第二に、ハワイの文化に関して述べる。

一般的に、日本人にとってハワイ語の発音は聞き取りやすく、話しやすいとされている。なぜなら、ハワイ語は日本語と同様、母音が5個であるからだ。アロハ（挨拶）やマハロ（感謝）、また私達が通ったハワイ大学の所在地もマノワと呼ばれる谷であり、やはりハワイ語が使用されている。このように、至るところで現在においてもハワイ語を見聞きすることができる。また、私達も実際に体験する機会が設けられたフラダンス等も、親しみやすいハワイの文化と言えるであろう。短い時間ではあったが大変貴重な経験となり、機会があるようなら再びやってみたいと思う。

第三に、ハワイの歴史に関して述べる。

カメハメハ王を始め、カラカウア王、リリウオカラニ女王等、ハワイ王家の人々の業績について学んだ。その中でも、カラカウア王は、初の日本の国賓として1881年に訪れている。日本の皇族とハワイの王家との結婚、アメリカ支配回避のための太平洋間の同盟、移民の確保の3柱が主な目的であった。また、歴史的な建造物についても訪ねることができた。特に私が注目した場所は、イオラニ・パレスである。ハワイ王朝末期の目まぐるしく変化する混乱の時代の中で、様々な出来事が起こった場所として歴史に名を残している。ハワイ王国最後の王であるリリウオカラニ女王が調印を行ったのも、幽閉されたのもこの場所である。

第四に、日系移民の歴史に関して述べる。

日系人が後世に伝えてきた言葉として、忠義、名誉、犠牲、義理、恥と誇り、責任、感謝、仕方がない、頑張り、我慢、恩、孝行といったものが代表として挙げられる。彼らは、物事の根底に「おかげさまで」という心を常に持ち続けた。全てを受け入れた上で、なんとかするしかない、では自分たちに何ができるのかを必死に考えながら生きたということがよくわかった。ただ諦めるのではない、もう一歩進んでどうするかを試行錯誤する、そのような姿勢を見て取ることができた。悩み、もがき、苦しみながら

も、希望の光を失うことなく、ただ絶望するのではない、新たな別の道を歩んだということが身に染みて感じられた。第100大隊、第442連隊といった日系人部隊の生き様がそこには刻まれていた。厳しい時代の中で、彼らは「がんばれ、あきらめるな」という言葉を胸に刻み、それぞれの戦場へと赴いたようだ。彼らの覚悟の程は、私には想像もできない。理不尽を撥ね退けるだけの力を持っていたことに驚きである。1868年、元年者と呼ばれる最初の移民団が到着、1885年になると本格的な移住が始まり、ほとんどの移民は砂糖精製工場またはパイナップル畑で働いた。日本に帰る人、アメリカ本土へと渡る人もいたが、ハワイに残った人はコミュニティを作り、日本人の価値観と習慣を守り続けた。移民たちは過酷な労働に耐え、子供たちにはよりよい暮らしをさせたいという希望を持ち続けた。

最後に、私達は天台別院と浄土別院にも足を運んだ。ここでは、パールハーバー並びにその後の第二次世界大戦に関して学んだ。日本側から見た歴史とは異なるアメリカの立場に基づいた戦争の話、そしてやはり日系人の働きについて考えさせられた。立場や思想、考え方の違いにより、全く別の視点で描かれていくということがわかった。

今回のハワイ大学での語学研修は、3週間という長いようでいて、あっという間の時間であった。しかし、その短期間で、今後の人生を生きていくにあたって役立つであろう様々なことを勉強することができた。ハワイ自体は幾度となく訪れている地であり、期間も3週間では、それほど多くを学ぶことはできないかもしれないという思いもあったが、研修を経て、このような機会を与えられ、参加することができたことに心から感謝したいと思っている。なにより、自分の英語に自信を持つことができたことが最大の成果である。最後の卒業式では、皆の代表として英語でのスピーチまで行うことができた。今後は海外に行く際、臆することなく英語を使うことができると確信している。今回の語学研修参加理由は、使える英語を身に付けることであったため、目標を達成することができたと言える。また、これからの国際社会においては、英語が必要となる日が遠からず来るであろう。そのような日に向けて、これからも日々努力を重ねたい。今後もまた機会があるならば、積極的にこういったプログラムに参加したいと思う。新たな人生を踏み出す良き一歩となったことに感謝する。



ハワイでの3週間を振り返ると、日本ではとても想像のつかないほど広大で自然豊かなキャンパスで過ごした、刺激的かつ非常に充実した日々であった。滞在中も、ハワイ大学で過ごす日々が、日本で過ごす日々とはあまりにもかけ離れた生活だったため、信じられず長い夢を見ているようだった。帰ってきてから振り返っている今も、あの3週間は幻だったのではないか、とってしまうほどの速さで充実していた日々は一瞬で過ぎ去ってしまった。

私がこのプログラムに参加した理由は、語学力を高めるためということはもちろん、そのほかに外国の文化の違いなどに触れるため、学生のうちに語学研修に参加したいと考えていたからであった。私はこのプログラムが人生で初めての語学研修であったので、今まで英語で会話する機会は学校の英語の時間しかなかった。それゆえ、自分の本当の英会話能力の実力も知らず、スラスラ会話できたらいいのに、という理想だけが膨らんでいた。

私は授業を受けるまではハワイ大学での授業に関して、事前に日本で先生からハワイ大学の先生は、日本人の特徴を理解した授業であると聞いていたが、日本での英語の授業と似ているものではないかと勝手に想像していた。私は、誰からも発言がないと授業の流れが滞ってしまうというような、どんどん発言することを要求する形式の授業を想像していた。私は日本の英語の授業はこのようなタイプが多いと感じていて、またこのような誰かの行動がないと進まないというような授業は、プレッシャーを感じてしまうので苦手であった。しかし、事前に日本で先生から聞いていた通りの、日本人の特性をよく理解され作られた授業であると感じた。授業でそれぞれの意見を発言するときに、先生はいつも私たちの発言に対して大きく頷いて聞いてくださっていた。そのことが私は非常に印象的であった。大きく頷いて聞いてくださったおかげで、単語をつなぎ合わせただけのような自分の文章でも伝わっていると実感することができ、そのことに私は非常に大きな喜びを感じた。私にとって自分の英語が伝わったという出来事は非常に大きな収穫であり、このことを理解することが語学研修で1番重要だったのではないかと感じた。日本にいては、どうしても自分の英語が本当に伝わるかどうかはわからない。まずは自分の英語が伝わるということを知れたことが大きな一歩であった。

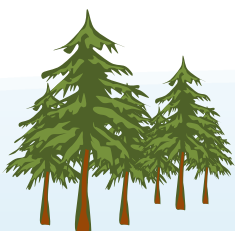
また学年や学部を問わず参加できる点も、このプログラムの大きな魅力であると感じた。学部学科の異なる同級生や先輩、また同じ学科の先輩など、普段関わる機会の少ない人と3週間ともに過ごすことにも非常に意味があった。いつもと同じメンバーでは見えないことが見えたり、関わったことのなかった人と過ごすことで受けた刺激は多かった。そして協力する場面もあり、ハワイ大学の学生だけでなく同じ大正大学の仲間からもコミュニケーションや関係形成について学べることは非常に多かった。

そして、語学の授業はもちろんのこと、宗教の授業やハワイの文化、言語、そしてフラダンスの授業なども非常に充実した日々を送ることができた。私が語学研修中に掲げていた目標のうちの一つに、ハワイでしか得られないたくさんのお話を吸収する、というものがあつた。これは、この多彩なカリキュラムによって達成することができた。

私が特に好きだったことは、先生が授業で教えてくださったハワイ語だ。ハワイ語は少ない子音の組み合わせで成り立っている。古くから伝わる伝統的な言語であり、ショッピングセンターや、観光名所などの地名に使われている名前も、その言語を組み合わせているということを教えていただき、いっそう興味が湧いた。その場所に込められた意味を読み解ける暗号のように思え、もっと知りたいという好奇心を掻き立てられた。その好奇心により、私は先生が勧めてくださったハワイ語の小さな本を購入した。その本を先生が監修されたいたことを知り驚き、また嬉しい気持ちでいっそう勉強の意欲が高まった

今回ハワイ日本文化センターを訪れハワイにおける日系移民の歴史を学んだ。日本にいてだけでは日本からの観点だけになりがちだが、ハワイ日本文化センターを訪れたことによりハワイから見た観点で学びことができ、また展示物などを通して実際に体感しながら学習であったので、さらに理解を深めることに繋がった。私はこのプログラムに参加するまで、日系移民について勉強したことがなく、その存在自体もあまり知らなかった。しかしこのプログラムに参加し、日系移民についての授業も受け、さらにハワイ日本文化センターを訪れたことにより、日本にはお金を稼ぐためにハワイに行き、想像とは離れた生活を強いられ、それでも働きそしてハワイで暮らすことを受け入れた方々がいたという歴史をようやく理解した。このことを勉強する前は、昔の日本と外国との関係は日本史の教科書に載っているもの程度しか知らず、ハワイとこのような繋がりをもっていた歴史があるなど考えてもいなかった。今回のこの学習を受け、自分の日本についての知識不足を痛感した。外国のことをさらに知りたいと思うとともに、自国のことをまず知らなければならぬという意識が芽生えた。ハワイのこの心地の良い天候の中、陽気で、幸せそうにハワイの地で生きている人々の様子を見て、私も自分の国を愛したいと感じた。そのためにもまずは日本のことをよく理解することから始めたい。

このプログラムでは、自分の英語力の現状、そして英語を学ぶに当たっての苦手分野を知ることができ、また自分の英語でも少しだが伝えられるとわかったことが学びとして非常に大きかった。このことはこれからの成長に大きく関わることだ。そして言語や文化の異なる人々と交流することで、異文化交流について自分自身で考える機会も多々あった。そして1週間以上親元を離れたことのなかった自分が、3週間学校の仲間と生活するというような初めての体験がたくさんあったが、その中で様々なことを考え、多様な感情にむきあつたことは、かけがえのない貴重な経験であり、一生忘れることはないだろう。そしてこのプログラムを実施している大正大学、サポートしてくださった先生方、私たちに数多くのことを教えてくださったハワイ大学の皆様、そして参加を承諾してくれた両親など様々な人の尽力があつてこの経験をすることができたので、感謝の気持ちを忘れずに、この語学研修で学んだことを一つも無駄にしないよう努力を続けていこうと強く感じた。



今回の語学研修で初めてハワイに訪れた。ハワイの第一印象は、心地よい気温で、人々が穏やかな印象であった。

語学研修では2つの目標を持って行った。一つは日本とハワイの文化の違いを知ることである。日本は海外からみてどんなふうに見られているのか。また、日本人とハワイの人の考え方などの違いを発見することをいつも心の片隅に置いていた。二つ目は、英語力の向上である。

しかし、達成できたのは日本とハワイの文化の違いを知ることだけであった。例えば、ドアを開けると、日本の場合、自分が通り終わるまでドアを開けておくが、ハワイの場合、後ろの人が通り終わるまでドアを開けて待っていてくれる。私は、現地の人の人遣いに感動した。

また、サッカーと一緒にしたいと思い、フェンスの中に入りたいと声をかけたことがあった。そうしたら、「あっちから入って!」と言われた。あっちってどっちだろうと困っていたら、通りすがりのおじさんが「こっちだよ、ついてきて!」といってくれたので無事にフェンスの中に入れた。日本では声をかけられたら、対応してくれるが、ハワイでは、すみません、と一声かける前に困っていると思ったら声をかけてくれる。このことから、日本は困っている人を見つけても自分から積極的に声をかけに行く人が少ないと思う。しかし、ハワイは主観的に考えているので、積極的に人に声をかけている。これも文化の違いだなと思った。

聞き取る力、話す力が足りなくて、悔しい思いもした。授業中に先生が言っている指示が何かわからなかったことがたびたびあり、そのたびに悔しい思いをしていた。また、インターチェンジでも、ゆっくりしゃべってくれているのはわかったが、それでも聞き取れないことが多くて、悲しい思いをすることもあった。また、聞き取れたとしても、自分の意見を言えないもどかしさもあり、悔しかった。

初めて外国人と話してみて、こんな言い方もあるのかと気づけたことが多く感じた。例えば、朝、学生食堂でオムレツを作ってもらうときに、おじさんにどのようにして作ってもらいたいかを言う機会がある。例えば、目玉焼きを1つ両面焼きにしてほしいと頼むとする。その場合、「1エッグ、オーバー」というと目玉焼きを両面焼いてくれる。最初は「あ?」と聞き取られなくて落ち込んだが、だんだん注文していくうちに「あ?」と聞き返されなくなっていった。

授業では、歌を歌うことや、ハワイと日本の歴史などを学んだ。事前学習で日系移民のお話を聞き、お寺で第二次世界大戦のお話を聞いたりしてきたが、一番印象に残っているのが日本ハワイ文化センターである。ここでは日系移民のお話を聞くことができた。お話を聞いて、日系移民は現地の人から酷い扱いを受けていたことが分かった。言葉が通じないのでムチで叩かれると聞いて驚いた。それでも日本に帰らずにハワイに残っていたのは、ハワイのほうが稼げるからだったという。その話を聞いて、暴力をふるわれてまでしてお金を稼げなければいけない時代だったのだと思い、日系移民の人はすごく苦労したのだと思った。

特にパールハーバーに行ったときは衝撃的だった。なぜなら、真珠湾攻撃で日本がハワイにどれだけの犠牲者を出したのかが分かったからだ。死者米国側2,338に対し、日本側は64。船舶が、米国側沈没12、損傷9に対し、日本は5隻。今までは、アメリカが日本に原爆を落としてきた。ということが印象的だったので、アメリカはひどいと思ってきたが、日本が最初に仕掛けた真珠湾攻撃のことを考えると、アメリカだけが悪いのではないのだと思った。

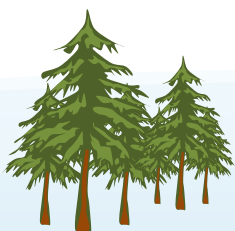
また、ハワイの図書館は日本とは比べ物にならないほど大きかった。図書館は2つあり、しゃべったり、食べたり飲んだりできる図書館と、日本のような静かな図書館があった。食べたり飲んだりできる図書館は辞書のような分厚い本が多くあった。さらに、音楽を聴けるブースもあり、静かな図書館よりにぎやかな雰囲気だと感じた。反対に、静かな図書館では、館内がとても広く、2階には、見張りのおじさんがいた。本の種類は、薄い本から厚い本まであり、腕の長さ以上もある大きい本などさまざまな本があった。その中でも私が目についたものがあった。黄色い紙が挟まれている本があった。疑問に思ったのでインフォメーションカウンターに行って、聞いてみると、その黄色い紙は古い本のしるしで、どんどん新しい本が来るため、古い本は処分するのだという。日本だと何も言わずに閉架図書に行ってしまう。小さなお店でも日本とハワイの違いを見つけられたことに嬉しさを感じた。また、インフォメーションカウンターの女の2人がとても親切であった。日本でALTの経験があったので、少し日本語が喋れるよ。と言ってくれたので、英語と日本語を交えながら話せたことが印象的だった。

海外で自分の英語力は通じるのだろうか。と不安に思っていた。しかし、英語が上手い下手よりも伝えようとする気持ちがあれば、伝わるのだということが実感できた3週間だった。



aisho University Itinerary of Intercultural Studies at University of Hawa

1月31日 (日)	2月1日 (月)	2月2日 (火)	2月3日 (水)	2月4日 (木)	2月5日 (金)	2月6日 (土)
						21:30 Dep. Narita Airport 09:30 Arriving at Honolulu
2月07日 (日)	2月08日 (月)	2月09日 (火)	2月10日 (水)	2月11日 (木)	2月12日 (金)	2月13日 (土)
	8:30 - 9:30 Greeting and Introduction	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 09:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 09:30 Class	Kapiolani Farmers Market
	10:15 - 12:20 Orientation and Campus tour	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	Diamond Head Climbing
	Lunch 1:30 - 15:00 Campus Tour	Lunch	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	14:00 - 15:00 Special Lecture (Ms. Shantelle Kaaialii)	1:30-16:30 Tendai Mission of Hawaii	Cal State Fullerton (Basketball)
2月14日 (日)	2月15日 (月)	2月16日 (火)	2月17日 (水)	2月18日 (木)	2月19日 (金)	2月20日 (土)
10:00-12:00 Jodo Mission of Hawaii	8:30 - 13:30 Off-Campus	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	School trip
	President Day	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Hula	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	Kailua City Kailua Beach
		Lunch	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	Lunch	13:30 - 16:00 Japanese Cultural Center of Hawaii	
2月21日 (日)	2月22日 (月)	2月23日 (火)	2月24日 (水)	2月25日 (木)	2月26日 (金)	2月27日 (土)
10:00-12:00 OP Jodo Mission of Hawaii	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 11:30 Class	10:55 Dep.Honolulu Airport
	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Educational Activity	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Class	Graduation Ceremony	2月28日 (日) 15:10 Arriving at Narita
		Education Activity Honolulu Zoo	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	Honolulu Academy of Arts	Luncheon	





成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にいながら世界と繋がるのが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際に行ってみて自らの目を見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを使い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のことは好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたいと思った。」彼らの言葉ですべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多くの中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。

今後とも、きっかけを作ることで、学生自らが気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

ハワイ語学研修文集 2016

東京都豊島区西巣鴨3-20-1
大正大学
教務部学修支援課

電話番号: 03-5394-3039

電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp

